

特定非営利活動法人 ワネッツ

活 動 報 告 書

第 5 期

(2021年4月1日 ～ 2022年3月31日)

2022年6月26日

強制余白

1. 活動の目的

1-1. 決意

特定非営利活動法人ワネッツ（以下「ワネッツ」という。）は、以下の決意のもと 2017 年 4 月 6 日に設立した。

なお、2019 年 12 月、NPO 法に定める特例認定 NPO 法人格を取得した。

私達は、嶺南地方を中心に、この地域の人口構成上の中核となる高齢者によって、イノベーション（従来のモデルを改革して社会的に意義のある新しい価値を創造し、社会に大きな変化をもたらす活動）を進めるために、特定非営利活動法人を設立する。

また、この法人が管理運営する「地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR：ニーター）」は、緊急時において不公平感のない中立的な組織として、行政のみならず自主防災組織などの住民自主活動も支援する。これは、この地域の災害の復元力（レジリエンス）の向上にも大きく寄与するものであると信ずる。

さらに私達は、この法人に組織管理手法（マネジメントシステム）を取り入れ、常に継続的改善、自己改革ができる組織をつくり、「原子力発電所がある地域は元気な地域」と呼ばれるようになることを目指し、この実現のため「終わりなき挑戦」をする覚悟である。

1-2. 目的

この決意のもと、ワネッツの定款において法人の目的を設定した。

この法人は、地域住民、地方公共団体および原子力事業者等に対して、原子力緊急時における防護対策および災害応急対策ならびにこれらの準備に関する支援等を行い、地域の防災・減災力の向上に寄与することを目的とする。

この定款の目的を、2019 年 9 月、以下のように改定した。

この法人は、地域住民および関連組織との間で原子力緊急時に関するリスクコミュニケーションを実施することで、地域に備える防災力の向上ならびに緊急時となった場合の減災力の向上に寄与することを目的とする。

1-3. 事業

この目的を達成するため、特定非営利活動促進法で定める災害救援活動および地域安全活動の領域で、以下の 5 つの非営利事業を実施することとした。

- (1) 地域住民のための原子力緊急時援助隊運営事業（以下、「NEATR 運営事業」という。）
- (2) 地域住民のための原子力緊急時援助隊隊員等研修事業（以下、「NEATR 隊員等研修事業」という。）
- (3) 緊急時ツール開発管理事業
- (4) 原子力および放射線緊急時知識普及事業
- (5) 関連付随事業

2. 2021 年度の活動の成果

2-1 特定非営利活動事業における成果

ワネッツの 2021 年度（第 5 期）の活動については、第 6 回通常総会(2021 年 5 月 31 日、テレワーク(テレビ会議)方式)の議決を踏まえ、リスクコミュニケーションの技術を用いて、地方公共団体および関係ステークホルダーとの連携をはかるなどして、以下の項目を重点的に実施した。詳細は添付資料の活動報告書に記す。

- ・ 2021 年 5 月より、確立された国際基準（国際原子力機関の GSR Part3 および Safety Glossary）を用いて、国内における放射線の社会通念の壁を打ち破るためのレッツレブキャンペーンおよびロビーイングの実施
- ・ 2021 年 10 月 30 日(土)、福井県原子力防災訓練時に美浜町と連動しシナリオ非提示で外部評価を取り入れた 2021 年度コマンドシステム演習の実施
- ・ 前年度に引き続き、世界がリスクマネジメントを適用している新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の対応を参照評価した、リスクアセスメント、リスク対応およびリスクコミュニケーションに係る技術開発の実施
- ・ 2021 年 10 月 29 日(金)、地元支援の実効性を高めるために地元を学習する「地元福井を知る事業」の実施

2-2. その他事業（収益事業）における成果

収益事業は実施していない。

2-3 運営における成果

ワネッツの運営は、定款に定める事業が成立し、かつ継続的な改善が可能となるよう、以下の活動を実施し、それぞれ、前第 1-1 項に示した成果に寄与させることができた。なお、2021 年度の補助金申請 1 件（福井県わくわくチャレンジ）を行ったが成案とはならなかった。これにより発足以来、9 件申請で補助金獲得は 2 件となった。

- ・ 月次会計報告書でのキャッシュフロー分析および事業費明細の表示
- ・ 福井県等主催のボランティア研修会への積極参加
- ・ ワネッツの正会員および賛助会員の獲得
- ・ NEATR 隊員の獲得
- ・ 継続的な寄付募集
- ・ コマンドシステムの導入、定着
- ・ ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

3. 事業の実施に関する事項

2-1 特定非営利活動における事業

2021 年度は以下のとおり件の事業を実施した。なお内 2 件は 2022 年度に継続した。

区分	事業名	実施日	内部/外部参加者	実施場所/実施内容
(1)NEATR運営事業	2021 年度コマンドシステム演習事業	2021 年 10月30日	7名 [136人回 1名]	おおい町総合市民センター 各隊員自宅
(2)NEATR隊員等研修事業	地元福井を知る事業	2021 年 10月29日 完了	7名 [一人回 2名]	各隊員自宅 敦賀市あいあいプラザ
(3)緊急時ツール開発管理事業	リスクアセスメント技術開発事業	2020 年 5月~ 完了	10名 [一人回 0名]	フネッツ小浜事務所 各役員自宅
	リスクモデル適用技術開発事業	2020 年 12月~ 完了	10名 [一人回 0名]	フネッツ小浜事務所 各役員自宅
	リスクコミュニケーション価値創造事業	2021 年 1月~ 完了	10名 [一人回 0名]	フネッツ小浜事務所 各役員自宅
	戦略本部技術開発事業	2022 年 3月 継続中	10名 [一人回 0名]	フネッツ小浜事務所 各役員自宅
(4)原子力および放射線緊急時知識普及事業	2021 年度若狭湾エネ研受託研修事業	2021 年 1月20日 完了	1名 [一人回 3名]	敦賀市若狭湾エネ研
	放射線量空気の壁打破事業	2021 年 5月~ 継続中	10名 [一人回 6名]	フネッツ小浜事務所 福井県国際交流会館 参議院議員会館
	おおい町、高浜町合同ワークショップ	実施せず	—	コロナ禍により実施できず
(5)関連付随事業	会員特典事業	実施せず	—	「放射線量空気の壁打破事業」との軸で実施できず。

2-2 その他事業（収益事業）

収益事業は実施しなかった。

2-3 理事会および総会

(1)定款に基づく理事会および総会を以下のとおり実施した。

区分	年月日	場所・方式	出席	議事状況
理事会	2021 年 6月16日	テレワーク方式	出席8名 欠席0名	2021 年度種別計画について 役員改選について 他
総会	2021 年 6月27日	テレワーク方式	出席27名 欠席17名	2021 年度種別計画について 役員改選について 他

(2)ワネッツ役員会規定に基づく役員会を以下のとおり実施した。なお、メール審議等は、定款変更に伴い実施したものである。

回	年月日	場所・方式	出席	議事状況
2020年度 第7回	2021年 5月12日	テレワーク 方式	出席9名 欠席1名	第4期決算について 第5回ワネッツ定期総会について 他
2021年度 第1回	2021年 5月31日	テレワーク 方式	出席9名 欠席1名	2021年度執行体制について 福井県知事宛報告書の提出について
第2回	2021年 6月9日	テレワーク 方式	出席9名 欠席1名	放射線量空気の壁打破事業について
第2回	2021年 10月15日	テレワーク 方式	出席9名 欠席1名	中間決算について コマンドシステム演習について 他

(3)監査については以下のとおり実施した。なお、それぞれの監査報告書は2021年度決算報告書に掲載した。

回	年月日	場所・方式	出席	議事状況
第1回	2021年 5月10日	テレワーク 方式	監事2名 理事1名	2020年度決算監査
第2回	2021年 10月14日	テレワーク 方式	監事2名 理事1名	2021年度中間決算監査

2-4 運営に関する事項

(1)重要な規定の制改定および契約の締結

特になし。なお、現状の重要な規定および契約は以下のとおり。

- ・ 特定非営利活動法人ワネッツ定款（最終改定 2018 年 7 月 3 日）
- ・ WANETS 規定第1号 NPO 法人ワネッツ役員会規定(最終改定2020年5月10日)
- ・ WANETS 規定第2号 NPO 法人ワネッツプライバシーポリシー(最終改定2020年5月10日)
- ・ WANETS 規定第3号 NPO 法人ワネッツ旅費規定(最終改定2020年5月10日)
- ・ WANETS 規定第4号 NPO 法人ワネッツ会計規則(最終改定 2020 年 5 月 10 日)
- ・ WANETS 規定第6号 NEATR 隊員規約(最終改定 2020 年 5 月 10 日)
- ・ WANETS 規定第7号 NPO 法人ワネッツ緊急時対応計画(制定 2020 年 12 月 27 日)
- ・ 株式会社 EPR クリエイト「事務処理委任に関する契約書」(締結 2017 年 4 月 12 日)
- ・ あいおいニッセイ同和損害保険株式会社「NPO 総合活動保険契約(締結 2018 年 8 月 25 日)
- ・ ワネッツシニアアドバイザー「ワネッツシニアアドバイザー契約」(締結 2018 年 6 月 20 日)
- ・ 公益財団法人原子力安全技術センター「原子力防災事業の実施に係る協定」(締結 2018 年 4 月 16 日)

(2)フネッツの正会員および賛助会員の獲得

フネッツ発足当時より、ダイレクトメール方式で新規の正会員・賛助会員の獲得を行ってきたが、2019 年以降、個人情報の保護の観点から、既存の NEATR 隊員や寄付者への勧誘しかできなくなったため、新規会員獲得数が大幅に減少した。

2021 年度は、何度かお願いするものの、主に年会費の未納による脱会手続きというケースであった。そのため、個々人ベースの勧誘に務めたが、そこにはおのずと限度があり、OB 会や労働組合を通じて勧誘活動を行っている。

また、2020 年度に女性会員 1 名が脱会したことにより、女性会員がゼロとなった。この件も対応する必要がある。

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体
正・賛会員数	57	9	67	9	61	9	61	9	55	10
期初めより増	18	9	11	0	0	0	2	0	0	1
期初めより減	3	0	1	0	6	0	2	0	6	0

(4)NEATR の隊員の獲得

2021 年 3 月の特別企画 3 1 1 コールインドリル事業にあわせ、新規 NRATR 隊員の獲得に務めた結果、2 名の入隊をいただいた。半面、主に、高齢等を理由に脱退 4 名あった。まさに、高齢化のきしみということであろう。組織の新陳代謝をはかるうえで、組織のイメージが決定的に重要となるので、その面での工夫をする必要がある。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
隊員数	139	133	129	119	117
期初めより増	15	1	3	0	2
期初めより減	14	7	7	10	4

(5)継続的な寄付収入の確保

フネッツ設立当初から、寄付により税制面でメリットが得る認定 NPO 法人格取得することを目指して、その法人格取得の 1 つの条件である寄付者 3000 円以上、100 人以上を活動のアウトカム指標として、寄付金獲得活動を実施している。

2021 年度期中において、このアウトカム対象寄付者から役員数 10 人を引いた人数が 101 人となり、アウトカム指標は達成した。これには 5 人の一般からの寄付者が含まれる。

2019 年度に認定を受けた特例認定の有効期間は 3 年で、本年 9 月頃には本認定を申請することになるが、役員抜きアウトカム指標を掲げ、引き続き PDCA を回していく必要がある。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
寄付者数(除役員)	120	101	106	101	102
3000 円以上	109	101	106	101	101
寄付総額(円)	1,145,517	815,900	797,000	707,000	712,955

この寄付者については、公開用名簿を小浜事務所に置いている。その中には、未使用はがきなど、物品寄贈者を正当な評価額とともに掲載している。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
寄贈者数	0	1	1	1	0
内容	—	未使用はがき	未使用はがき	未使用はがき	—
評価額(円)	0	46,837	868	2,202	0

(6)補助金等の申請

ワネッツ設立当初から財政面での安定化を目指すため、民間含め各種団体の補助金の獲得に取り組んでいる。2020年度は麒麟福祉財団の助成金の獲得にチャレンジしたが、昨年度に引き続き成功しなかった。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
応募件数	4	2	1	1	1
応募先	福井県、エネ庁、日本財団	復興省、日本財団	福井県	麒麟福祉財団	福井県ワクワクチャレンジ
採用件数	2	0	0	0	0
補助額(円)	※ 254,000	0	0	0	0

※ 有志で申し込んだものを含む

(7)コマンドシステムの導入、定着

コマンドシステムは、2017年2月に㈱EPR クリエイトが開発し、それ以降、同社と「事務処理委任に関する契約」を締結し、平時、緊急時を問わず NEATR 隊員を指揮統制するツールとして使用している。

演習では ICS フォームやミッションシートをあらかじめ作成しておき、それをコマンドウェブに張り付けていたが、実際に NEATR 戦略本部はこれを作成するのは容易でなく、2020年度コマンドシステム演習(8月27日実施)において、NEATR 指令本部の原子力緊急事態の情報を得た指令職が、即座にオンライン動画で指令を発する方式とすべくトライアルを実施した。その後、トライアル成果を踏まえ、2021年3月11日に実施した特別企画 311 コールインドリルでは、動画指令を発する可能性のある全指令職による、動画指令演習を実施した。さらに、2021年10月30日の2021年度コマンドシステム演習では、ブラインド方式により動画指令演習を実施した。

今後、動画中で示すフリップの形式を検討し、NEATR として正式に動画指令演習を採用する必要がある。

(8)ホームページの運営、ワネッツ会報および NEATR 機関紙の発行

NEATR 専用ホームページ(neatr@neatr-org.jp)は、NEATR コマンドシステム用ツールであるが、ワネッツの一般情報公開ツールや NEATR 活動の一般参加者募集用ツールとしても活用していた。2021年3月に寄付ページを設けるなど全面リニューアルし、「NEATR ホームページ」と改名した。その後、2021年12月に、「放射線量空気の壁打破事業」において、レップツールレブキャンペーンの特設サイトを設けた。このサイトの概要を以下に示す。

該当ページ	リニューアル内容
トップページ	・キャンペーン特設サイトの枠を設けた ・サイト閲覧者回数の表示を設けた
特設サイト	・ワネッツのロゴおよび NEATR のロゴを設けた ・IAEA に使用許諾を得たメール文を「エピソードとエビデンスについて」テキストにして張り付けた。 ・キャンペーンに関連する放射線量について、使用許諾を得た基準を和訳し「国際基準における線量の定義」テキストにして張り付けた ・使用許諾を得たメール文のエピソードを「エピソード内容」、「エピソードの使われ方」、「放射線量のエビデンスとは何?」、「エビデンスチェック」、「皆様へのメッセージ」というパワーポイントスライド方式で動画として張り付けた。 ・視聴者が、この動画に対するご意見をメールできるコラムを設けた。 ・「よくある質問」のコラムを張り付けた ・「ご寄付」のサイトも設けた

このサイトへのアクセス回数は、延べ 446 回(84 日間)、1 日あたり 5.3 回で、それまでの日平均 4.5 回を超えたものの、期待したほど上昇しなかった。また、メール意見件数は 14 件でこれは期待値を大幅に下回った。

ワネッツ会報は、ワネッツ会員とワネッツとをつなぐ場として重要なものと位置づけており、2021 年度は、下記記載の機関紙とあわせて、都合 2 回発刊した。当初予定は 3 回であったが、311 特別企画事業の中止により 1 回発行を見合わせた。

号	発刊日	主な内容
12	2021.5.19	2020 年度決算報告 ワネッツ第 6 回通常総会の開催案内 他
13	2021.10.20	2021 年度中間決算報告 放射線量空気の壁打破事業について 他

NEATR 機関紙は、情報共有面からの組織維持をはかるためと、隊員相互の交流の場を提供するため、会報と同じタイミングで発刊している。

号	発刊日	主な内容
15	2021.5.19	3月11日 特別企画ロールインドリルの実施報告 アドボカシーを行う旨の予告 他
16	2021.10.20	10月30日 初めてのブラインド演習のご案内 レップソーレップキャンペーン開始のご案内 他

NEATR 機関紙は、毎年度 1 回読者アンケートを実施しており、2019 年度はアンケート回収率が極端に低下していた。2020 年度、2021 年度も再度アンケート調査を行

う予定であったが、上旬のごとく、年度半ばの機関紙発行ができなかったため、中止せざるを得なくなった。

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
アンケート回収率	38.4%	38.0%	12.5%	中止	中止

(9) ワネッツシニアアドバイザー(WSA)との連携

2018年4月、ワネッツ役員会方針に基づき外部組織が主催する研修会等のアドバイザーができる知識、技能を持つ人を集め、ワネッツシニアアドバイザー(WSA)を組織(現在15名)した。2108年度は、原子力安全技術センターの防災基礎研修のアドバイザーを実施したが、それ以降2021年度まで、アドバイザー派遣の要請がなく、主に、NEATR活動への参加要請をしている状況にある。そんな中、各メンバーの幅広い知識、技能の向上の一助となるよう、月2回程度 WASA ニュースレターを発行している。

号	発刊日	テーマ
83	2021.4.2	大島の潜水艦基地
84	2021.4.12	トカラ列島の地震について
85	2021.4.18	風評流布は犯罪だ
86	2021.4.21	最良のコロナウィルス感染症の治療薬を見つけた？
87	2021.5.2	憲法7つの不思議
88	2021.5.12	7つの「何でやねん」 その1
89	2021.5.23	7つの「何でやねん」 その2
90	2021.5.29	7つの「何でやねん」 その3
91	2021.6.23	COVID-1?と東京オリンピック
92	2021.6.29	7つの「何でやねん」 最終章
93	2021.7.1	マルチハザード・アドバイザー・マップ
94	2021.7.12	7月3日の熱海市伊豆山での土石流について
95	2021.7.20	黒い雨のモデル 第1章 劇場
96	2021.7.26	黒い雨のモデル 第2章 目的とリスク
97	2021.8.2	黒い雨のモデル 第3章 フォールアウトモデル
98	2021.8.10	黒い雨のモデル 第4章 リスクアセスメント
99	2021.8.13	残留放射線
100	2021.8.3	消費性向0.1ショック
101	2021.9.3	ラドン防護
102	2021.9.13	エピソードでなくエビデンスで語ろう
103	2021.9.26	新規感染者が減少した理由
104	2021.10.4	SIRモデルで、国民を恐喝するのはもうやめよう
105	2021.10.24	1995年の集団風邪、2020年のダイヤモンドプリンセス、そしてCOVID-19
106	2021.12.31	震源の深さ
107	2022.1.10	コロナ第六波はどうなる
108	2022.1.16	本日の津波警報について
109	2022.1.24	米国NRCと日本NRAについて
110	2022.2.14	東京同調性バイアス その1 経済被害
111	2022.2.20	東京同調性バイアス その2 災害原因
112	2022.2.25	東京同調性バイアス その3 災害教訓
113	2022.3.9	東京同調性バイアス その4 災害対策
114	2022.3.20	3月16日(水) 深夜の福島県沖地震の特徴

なお、105号と106号の間で「放射線量空気の壁打破事業ニュース」に置き換えてニュースレターを発行した。

また、このニュースレター以降、WSAメンバーだけでなく、NPO法人ワネッツ会員にも同様にニュースレターを発行した。

以上

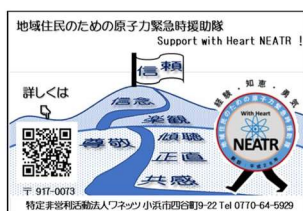
添付資料 地域住民のための原子力緊急時援助隊（NEATR） 2021年度 活動報告書

また、このニュースレター以降、WSA メンバーだけでなく、NPO 法人ワネッツ会員にも同様にニュースレターを発行した。

地域住民のための原子力緊急時援助隊 (NEATR)

2021年度

活動報告書添付資料



2022年6月26日

特定非営利活動法人 ワネッツ

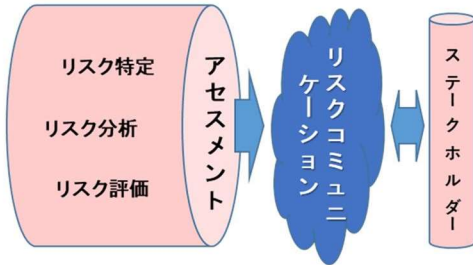
NPO法人ワネッツとNEATRの関係

1

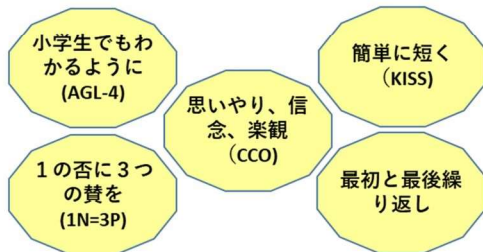
	地域住民のための原子力緊急時援助隊 (NEATR)	特定非営利活動法人ワネッツ
性格	任意団体 (2016(H28)年12月17日発足) 平常時、緊急時とも実際の活動を行う	特定非営利活動法人 (2017(H29)年4月6日設立) NEATRの運営を行う
目的	リスクコミュニケーションによる地域レジリエンス強化活動	リスクコミュニケーションにより、地域の防災・減災力の向上に寄与する
参加資格	若狭地方原子力職場の退職者で若狭方面または、京阪神方面等に居住、会費等なし	制限なし 加入金、年会費が必要
義務	隊員の義務は一切なし、加入・脱退自由	会員は定款に基づき権利、義務あり
現勢	隊員 117名	正会員 38名、賛助会員 27名 (内法人10)
会計	NPO法人ワネッツが実施 隊員の平常時活動は旅費規定適用、緊急時はボランティア	法人会計規則準拠(本会計と事業会計) 収入は、会費、寄付金、事業収入等 支出は、人件費、事業支出、管理費等
会議体	NEATR戦略本部会議(平時、緊急時) (役員会規定およびNEATR規約による)	役員会(役員会規定による) 理事会(ワネッツ定款による)
構成	NEATR指令職：隊長1名(肥田善雄)、副隊長1名、班長6名(NEATRコマンドシステム適用)	理事長1名(肥田善雄)、副理事長2名、理事4名、理事・事務局長1名、監事2名 (会計規定、旅費規定等整備)

活動の特徴1 リスクコミュニケーション

2



NEATRで用いるリスクコミュニケーションプロセス



NEATRで用いるリスクコミュニケーション技法

2019年9月、NPO法人ワネッツの定款の目的を改正し「**リスクコミュニケーションを行う組織**」としました。

ねらいは以下のとおりです。

□ 平常時も緊急時も一緒＝ワンボイス

起きたとしてコミュニケーション
緊急時に新しいことは言わない
念のため・・・起きたら説明できない

□ どこでも同じ用語＝ターミノロジー

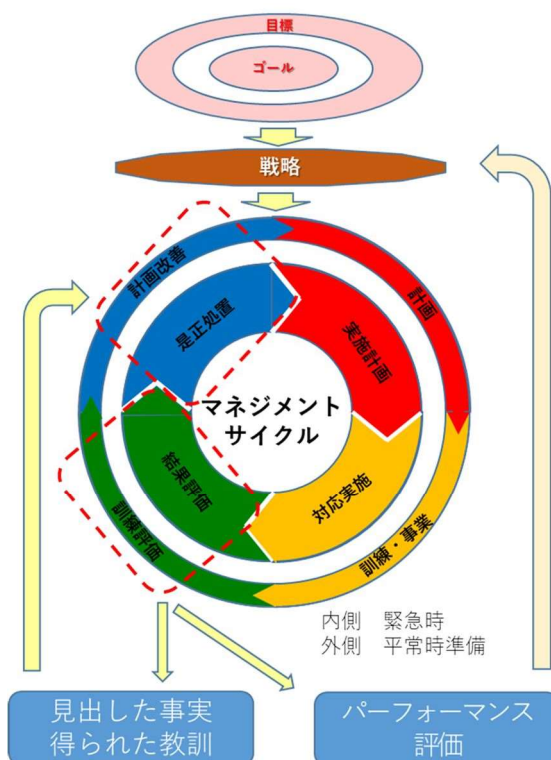
ミリよりマイクロが大きい・・・え！
グレイよりシーベルトで教えて・・・ええ！
放射線は貫通するから危険・・・ええ～！

□ ラポール（傾聴）＝思いやり・共感

人々は技術的な判断はしない
信頼している人・組織の声を聴く
信頼を得るためには、ラポール

活動の特徴2 マネジメントシステム

3



□ 平常時の事業および緊急時の対応とも、マネジメントシステムを適用し、**PDCAサイクル**をまわす。（左図参照）

このため、作成した計画には、脆弱性があるものとして、それを実施段階で“**事実**”として見出し、その事実から“**教訓**”を得る方式をとる。

□ 平常時の事業は、**緊急時の準備**として位置付ける。（講習会講師派遣などは“顔の見える関係の構築”）

□ 平常時事の業であっても、原則として、NEATRコマンドシステムを使い要員参集、ミッション実施および報告を行う。

□ 平常時および緊急時とも、目標は高めに置き、その高い目標にどれだけ近づいたかを**パフォーマンス評価**する。

2021年度コマンドシステム演習事業

6

- 日時 2021年10月30日(土) 08:00～14:00
(プレス取材は10:00～11:00で設定)
- 場所 戦略本部 美浜町郷市 はあとぴあ 2階会議室
隊員 自宅等
- 目的
福井県原子力総合防災訓練の場を活用して、地元との顔の見える関係をつくりあげること、およびNEATRコマンドシステムの継続的改善をはかること。(2016年から6回目)
- 実施内容
本部はライブ指令の実働で、初めてプレーヤーにシナリオを伏せて行うブラインド演習を行い、隊員は在宅でのロールプレイとした。また、オンラインの外部評価者を交えAARを行った。
- 評価(事実と教訓)
 - 本部実働参加は7名、ライブ指令の隊員視聴回数は、延べ136人・回であった。(前回は133人・回)
 - 外部評価者(土屋氏)からは、付与情報を理解できるまで質問する方がよい、自治体支援の増強、数値の把握の重要性などのご指摘があった
 - 最終的に①演習時のリアルさの醸成、②コマンドシステムの有効性の再評価、③演習参加隊員の減少への歯止め対応の必要性という3つの教訓を得た。



演習全体イメージ図



総支出 409,577円 内評価支出 121,500円

地元福井を知る事業

7

受講者質問	
1	洪水の雨量で、よく使われる「50年確率」の意味
2	平成16年7月福井豪雨の足羽川決壊は予測された場所か
3	敦賀市の「笠の川」に河川水量と周辺降雨に関係はあるのか
4	美浜町の洪水山伝説に関係するような耳川洪水がかったあったか
5	講演中に説明があった、「1000年に1回」の意味は
6	1/1000といった確率を、実際問題としてどういう風に使えばよいのか
7	確率のベースとなる数字は何か。どう使っているのか
8	「50年に1回」という降雨量をどうやって出したのか
9	実際問題として「50年に1回」がどんな降り方かわからない。
10	足羽川堤防決壊のとき、県庁側の堤防決壊が懸念されていたが、突然、反対側の春日で堤防決壊が起きた。
11	おおい町の佐分利川は、かつて堤防に桜を植えていたため、昭和28年の豪雨で桜を植えていた範囲の堤防はほぼ全部破壊した
12	熱海の土石流、原因を早くつかんで違法土砂盛土をやめさせる必要がある。

- 日時 2021年10月29日(金) 18:30～19:40
- 場所 美浜町郷市 はあとぴあ2階会議室(参加者7名)
- 目的
NEATRは周辺住民とともにあるため、「福井県井県令和3年度職場でトーク」で「水害・土砂災害から身を守るには」をテーマとして講演をいただき、地域の状況についてより深く理解する。
- 実施内容
福井県土木部砂防防災課の柳、岡部の両氏にご講演いただくとともに、多くの質疑応答を行った。
- 評価(事実と教訓)
 - 講演会のアウトカム指数として有効質疑数3回/1時間以上を設定しているが、今回は12回/1.1時間ときわめて高いパフォーマンスが発揮された。
 - この講義および質疑の中から、①災害の確率を理解する必要はなく、ただ起きるとして考えることが重要、および②夜間に異常を感じたら備えるために寝ないことという2つの教訓が導きだされた。
 - 年度2回の予定であったが、別の事業との関係で、2回目は中止した。

総支出 91,603円 内評価支出 74,300円

リスクアセスメント技術開発事業

8

1. 日時 2020年4月～2021年9月
2. 場所 ワネッツ小浜事務所および各指令職自宅
3. 目的
リスク対応しているCOVID-19パンデミックを参照し、リスクコミュニケーションを行うために必要となるリスクモデルを用いたリスクアセスメントの技術を開発する。
4. 実施内容(予定)
(1)リスクデータの収集(厚労省、WHO)を行う(約600日連続)
(2)感染は確率論としてモデルを構築する
(3)構築したモデルにより感染数予測を行う
5. 評価(事実と教訓)
 - 初期のデータから感染力を示す「基本再生係数」を求め、その係数を用いて以降の感染数予想が可能となるリスクモデルを開発し、予測評価を行った。(これは世界初と思われる)
 - 確率的な事象に関するモデル作成の技能が習得できたが、一層の高度化を図る必要がある
 - 関係者に「リスクは計算可能である」という基本が定着しなかった。ひきつづき取り組む必要がある。



リスクマネジメント上の位置づけ

ワネッツ作成モデル	独立事象モデル 確率過程	独立事象のため、感染経路に因果関係はなく、人権上の配慮ができる
分委会モデル	伝染モデル (SIR/M理論)	人口推計に用いられる基本再生産数、実効再生産数、集団免疫しきい値などのパラメータを用いる
Googleモデル	学習プラットフォーム	使用データを集めて、実績からモデルを順次適合させていく方式。

各種感染モデルの特徴



モデル予測の例(右端)

総支出 326,000円 内評価支出 325,000円

リスクモデル適用技術開発事業

9



リスクマネジメント上の位置づけ

首相官邸	伝染病ではないため、感染数に「人」をつけないください クラスター調査結果の公表は、人権を害する可能性があるため、やめてください
厚生労働省	海外にならない、土日のPCR検査をやめてください。 感染数等の定義を、ホームページに掲載してください。 国立感染症研究所のモデル推定を活用してください。 貴省の対策のパフォーマンスを評価し、ホームページに掲載してください 緊急事態下での対策の効果を推定し公表してください 海外にならない、人々感染の前提はとりやめてください 他

各所への意見提起内容

総支出 150,000円 内評価支出 150,000円

1. 日時 2020年5月～2021年9月
(検討会 2020年8月)
2. 場所 ワネッツ小浜事務所、各指令職自宅
3. 目的
リスクアセスメントで得られたデータを、どこの誰とどんな形でリスクコミュニケーションをするかについて検討する。
4. 実施内容
リスクアセスメント技術開発事業で構築したモデル評価で、原子力防災訓練で使えるかどうかを検討し、あわせて、その他のリスクコミュニケーションでの使い方を検討した。
5. 評価(事実と教訓)
 - 原子力防災訓練でのモデル評価結果の使用は逆に混乱を招くという検討結果となった。
 - その他の使い方として、モデル評価を関係各所へ意見提起することとし、首相官邸および構成労働省へ実際に意見した。
 - リスクモデル評価をベースにしたリスクコミュニケーションを行うには、前提のリスクについての考え方をまとめる必要がある。(後述するキャンペーンのきっかけとなった)

リスクコミュニケーション価値創造事業

10

1. 日時 2020年12月～ 2022年3月
2. 場所 ワネッツ小浜事務所、各指令職自宅
3. 目的

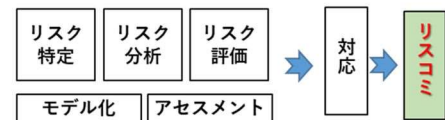
内外のCOVID-19リスクコミュニケーション事例を収集して、リスクコミュニケーションを行うために設定した5つの基本技法の適用状況を把握し、この技法の充実をはかる。

4. 実施内容

厚生労働省、NHK、世界保健機構(WHO)や米国疾病管理センター(CDC)のリスコミ情報を集め、分析し評価する。

5. 評価(事実と教訓)

- ・ 世界のCOVID-19は「人権」を前提として、患者に最善の医療を展開するとう目的のもと、リスクマネジメントが実施されていた。
- ・ リスコミ5つの基本技法(右記)の教訓は、ステークホルダーに勇気をもってもらうことについて、リスコミの目的を明確にして戦略を立て実施し評価することとした。
- ・ 総合的な対策として、リスコミはイノベーションであり、教訓を得て改善につながるサイクルを確固たるものとする事とした。



リスクマネジメント上の位置づけ

- ・ 思いやり・信念・楽観(CCO) Compassion, Conviction, Optimize
- ・ 簡潔に短く(KISS) Keep it simple and short
- ・ 最初と最後繰り返し(F&L) First and Last Repeat
- ・ 小学4年生にもわかる言葉で(AGL-4) Average Grade Level minus Four
- ・ 1つのネガティブには3つのポジティブ(1N=3P) 1 Negative equal 3 Positives

リスコミ 5つの基本技法

リスコミ キュレーション事業

日本 COVID-19
リスクコミュニケーションの分析・評価

2022年4月
特定非営利活動法人 ワネッツ

リスコミ価値創造事業報告書

総支出 230,000円 内評価支出 230,000円

戦略本部運営技術開発事業

11

マネジメント Management	導入後、都度の事業で開発(システム改善)を実施
リスク Risk	バスウェイモデル等のリスクモデル開発を実施
ストラテジー Strategy	今回実施
コミュニケーション communication	三つのリスクコミュニケーション技術開発を実施
アセスメント assessment	若狭湾エネ研受託研修事業でアセスメント技術開発を実施

世界の福島事故教訓の用語分析と技術開発

目的(ワネッツ定款)

目標(活動のゴール)

戦略

いつ、どこで、何を、
誰と、どのように

戦術(リスクモデル)

利用可能な最善の情報
人的な資源(能力、技術)
文化的な要素(立場、態度)

技術開発の位置づけ

総支出 25,000円 内評価支出 25,000円

1. 日時 2022年3月 ～ (継続中)
2. 場所 ワネッツ小浜事務所、各指令職自宅
3. 目的
NEATRの活動は戦略本部で計画・実施・評価するため、その運営技術を開発する。
4. 実施内容
NEATR戦略本部の活動に資するため、戦略について学ぶとともに、既存または新規のリスクモデルの有効な活用手法の技術を開発する。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ 普通、戦略はこうであると表現されないが、戦争においては勝利という目標を達成するため、叡智を集めた戦略が用いられ、その結果が必ず出るものであり、そこから類推することが可能である。
 - ・ 当面は、この実戦における戦略を類推し、それを理解し、NEATRに適用可能なものを抽出する。
 - ・ その後、適用可能な戦略をさらに具体化し、NEATR戦略本部の活動テンプレート(何をするかでなく、何を考えるか)を作成する。
 - ・ この活動は2022年度中で計画する。

若狭湾エネ研受託研修事業

12

1. 日時 2022年1月20日 9:00～17:00
2. 場所 福井県若狭湾エネルギー研修センター
3. 目的
若狭湾エネ研との「原子力発電所従事者の放射線防護研修」契約書に基づき、受託研修事業を実施する。
4. 実施内容
昨年度教訓を踏まえ、国際基準の導入とアセスメント実習の充実をはかり、研修を実施する。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ 国際基準導入については、空気壁打破事業のロビーイング成果(計量法改正)が研修日までに出来なかったため、一般的な国際基準の紹介を行った
 - ・ アセスメント実習は線源2回、線量、パスウェイのそれぞれについて計算表で行ったが、回数と計算量が多すぎて受講者の不評をかった。このため、両方において簡素化する必要がある
 - ・ 実習に重きを置く中、テキストの物量を確保するため、講義で使わないページが発生した。こちらも簡素化する必要がある。

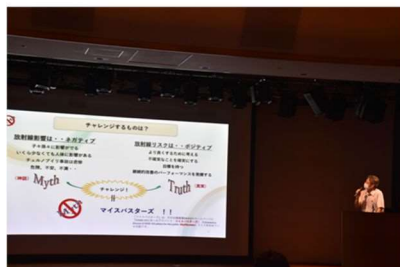


講義風景

総支出 150,770円 内評価支出 143,100円

放射線空気の壁打破事業1 (放射線ポジティブチャレンジ)

13



公開審査の風景

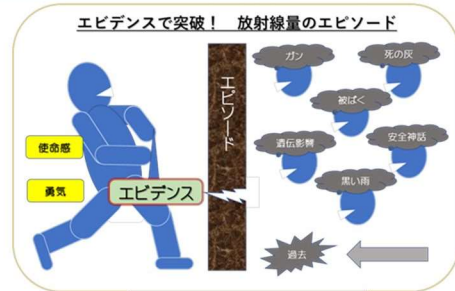
総支出 0円 内評価支出 0円

1. 日時 2021年5月 ～ 2021年7月
2. 場所 ワネッツ小浜事務所および各指令職自宅
公開審査会 7月13日 福井県国際交流センター
3. 目的
放射線空気の壁打破事業の一環として「福井県ワクワクチャレンジ2021」に「放射線ポジティブチャレンジ」というテーマで挑戦する。
4. 実施内容
国際基準を普及する新聞広告を行い、SNSで討議を行うことについて補助金(クラウドファンディング含む)の審査を受けたが採用にならなかった。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ 不採用の理由は明らかにされていない。評価の中では新聞意見広告をもっと詳しく説明すべきなどの意見があり、他発表者に比し公費を支給する対象にはそぐわないといった判断が働いたと推定した。
 - ・ 補助金申請は、これまで年2件程度全9件行い、5件連続を含め7件が不採用となった。しかし、困難なことを承知しつつ、財政安定化を目指し今後とも補助金獲得にチャレンジする。

放射線空気の壁打破事業2（継続中） （レッツツレーブキャンペーン）

14

1. 日時 2021年5月～（継続中）
2. 場所 ワネッツ小浜事務所および各指令職自宅
3. 目的
社会的な原子力安全を構成する一員として、放射線量の単位に関して社会インパクトを与えることで、集团的放射能不安心理という空気を打破することを目指す。
4. 実施内容
新聞広告、ホームページ掲載、折込広告、ロビーイングなど多種多様な手段を用い、不安心理の元を絶つ活動を行う。
5. 評価(事実と教訓)
 - ・ 電気新聞広告、専用ホームページ設置、SNS討論、計量法改正ロビーイング、専門家意見提起などを行った。
 - ・ これらの前提となる国際基準(IAEA IBSSなど)の著作物使用許諾を得て、上記を包含するレッツツレーブキャンペーンの基本根拠とした。
 - ・ SNS討論が不活発で、ロビーイングも着手した状態のため、本事業を継続する。



キャンペーンロゴ

意見広告 (ペイドメディア)	12月20日実施
ホームページ (オウンドメディア)	12月20日、キャンペーン特設ページ公開、継続中
IAEA調整 (シェアードメディア)	11月26日、著作物使用権取得 (GSR-Part3、safy glossary) 完了
ロビーイング (アドボカシー)	11月25日より継続実施中 (計量法改正)
機関紙等発行 (オウンドメディア)	継続的に発行中
出版、投稿 (ペイドメディア)	12月27日、新聞折り込み実施 出版について検討中
各種団体調整 (オウンドメディア)	原子力学会に意見 継続的に実施予定

実施状況

総支出	1,397,578円	内評価支出	841,700円
-----	------------	-------	----------

